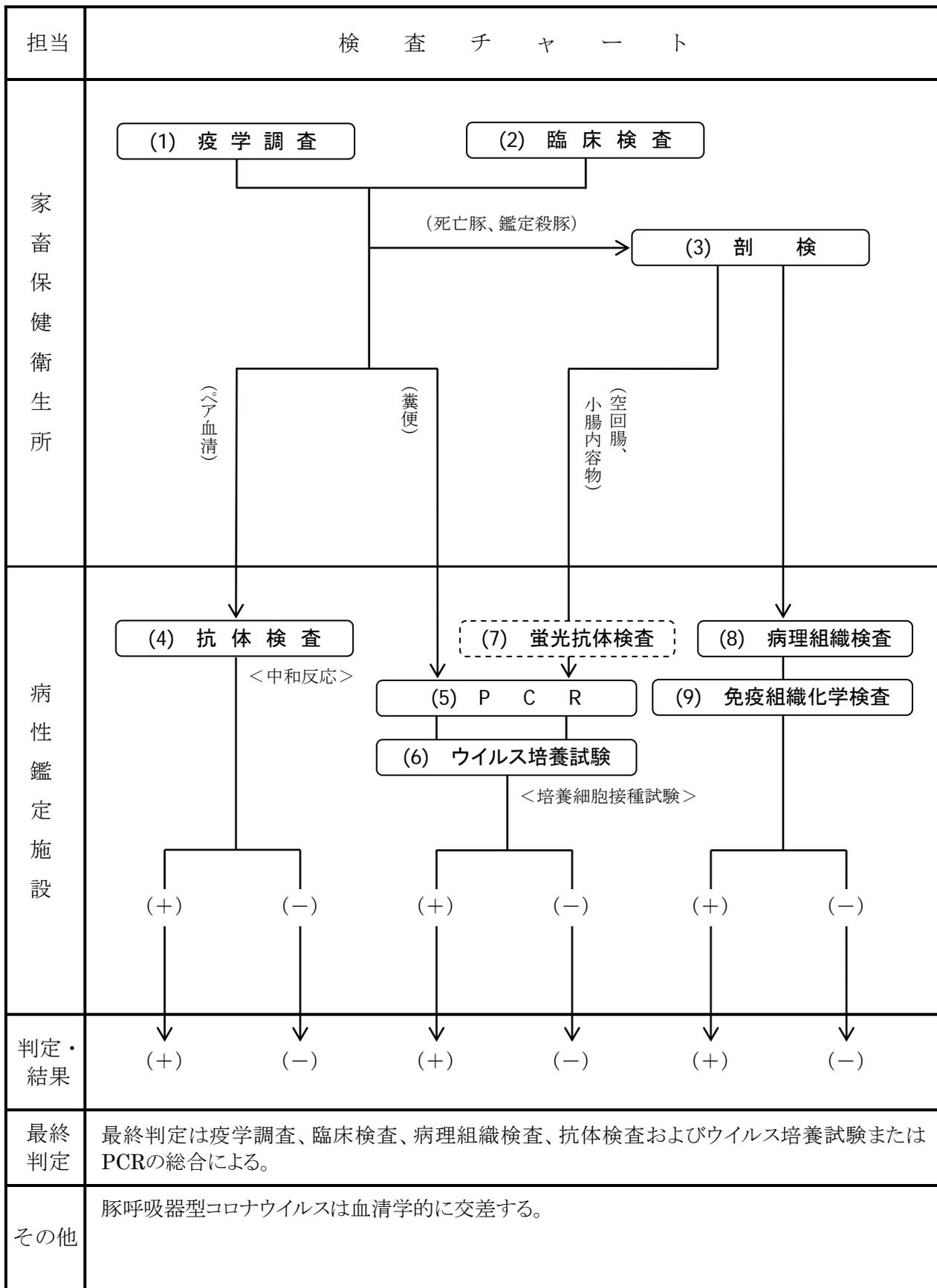


77 伝染性胃腸炎〔届〕



→類似疾病検査

- ① 70 豚コレラ
- ② 76 オーエスキー病
- ③ 87 豚ロタウイルス病
- ④ 98 豚大腸菌症
- ⑤ 83 豚赤痢
- ⑥ 73 サルモネラ症
- ⑦ 95 豚クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症
- ⑧ 80 豚流行性下痢

○ 病原体:伝染性胃腸炎ウイルス;Transmissible gastroenteritis virus [*Alphacoronavirus 1*, *Alphacoronavirus*, *Coronaviridae*]

(1) 疫学調査

- ① 伝播が速く、高い発病率を示す。
- ② 年齢に関係なく、発病する。
- ③ 子豚(2週齢以下)の死亡率が高い。
- ④ 冬期～春先に好発する。
- ⑤ 導入豚または導入豚に接触したワクチン未接種豚から発生した。
- ⑥ 周辺地域に本病の発生があった。

接種材料:下痢便、小腸内容物または粘膜の10%
乳剤遠心上清を10 μ g/mlの精製トリプシンで
37 $^{\circ}$ C、30分処理したもの

培養方法:精製トリプシン添加培地(0.5 μ g/ml)を用
い37 $^{\circ}$ Cで回転または静置培養

成績:CPEの確認

(初代培養ではCPEのみられないことが多い
ので数代の継代培養が必要)

同定:培養細胞中の特異抗原の確認
中和試験

(2) 臨床検査

- ① 水様性の激しい下痢と脱水症状
- ② 下痢に先行した嘔吐
- ③ 母豚の著しい泌乳低下や泌乳停止
- ④ 離乳期以降や肥育豚では症状が軽度(ときに不顕性感染)

(7) 蛍光抗体検査

空回腸の凍結切片標本または空腸粘膜のスミア
標本を蛍光染色して鏡検する。細胞質内に特異蛍
光を呈する細胞が認められたものを陽性とする。

(3) 剖 検

- ① 小腸壁の菲薄化と弛緩、黄色水様性腸内容物の充満
- ② 哺乳豚では胃の未消化凝固乳滞留による膨満、胃憩室横隔膜側粘膜の小出血巣

(8) 病理組織検査

- ① 小腸絨毛の萎縮、融合(絨毛の長さや陰窩の深さの比が1:1あるいはそれ以下になる。)
- ② 粘膜上皮細胞の空胞形成、扁平化、変性、剥離と粘膜固有層の水腫
- ③ ときに胃粘膜上皮の変性、リンパ節と脾臓の網内系細胞の活性化
- ④ 腎臓の曲尿細管上皮細胞の変性

(4) 抗体検査(中和反応)

ペア血清について実施。豚呼吸器型コロナウイルスは血清学的に交差する。

(9) 免疫組織化学検査

小腸の免疫組織化学染色による抗原検出

(5) P C R

RT-PCR¹⁾を行う。ウイルス分離が困難であるため、補助診断として有用である。

(参考文献)

(6) ウイルス培養試験(培養細胞接種試験)

使用細胞:CPK細胞、ST細胞

- 1) Paton, D., et al.: J. Virol. Methods. 66, 303-309 (1997).